

てびねり

七月号

平成22年7月1日発行
株式会社ゆしま陶助

日本人と虫たちの深く長い歴史
ムシってこんなに面白い!

大昆虫博

期日 6月22日～9月5日
場所 江戸東京博物館

JR総武線「西国駅」徒歩3分

ムシが極端に少ない大都会東京で、虫とのふれあいを楽しむ絶好のチャンスです。新しいスタイルの虫の展示会にお子さんやお孫さんと出かけて見ませんか。新しい発見がありそうです。



虫は今から約4億年前に誕生し、現在では100万種の昆虫が確認されています。私たちの住む日本の気候は高温多湿で虫の種類も多く、我々は遠い昔からトンボやホタルを始め多くの虫たちと共生してきました。虫の声に季節を感じ、歌に詠むなどは日本が世界に誇る文化の一つと言えます。東京はトンボやセミ、ホタルなどが生きる範囲は極端に狭められ、めったにその姿や声を聞く機会がありません。この機会に思い切ってお子さんやお孫さんと出かけてみましょう。

◆今月の制作風景

□柿沼ひろみさん
慎重に湯呑の形を整えています。



□浅沼範子さん
「お抹茶碗は高台が大事なんです」と話しながら削る浅沼さん。



□武田京子さん
色を何にしましょうか



□澤三紀さん
いろいろな形の植木鉢を作っています。



□山口和江さん
ティッシュボックスの釉薬掛けをしています。



□平石規代さん
急須の口付けて結構むずかしいわ。



□菅野満雄さん
見本よりうまくできそうですが慎重に慎重に...



□石川宏さん
うつわに吹き付け中。もうクラクラです。



□渡邊美知子さん
バランスのむずかしい三つ足にチャレンジ。



□八須智子さん
初めてお抹茶碗に挑戦しています。



□宮崎誠仁さん
花入れの削り。このあとちよっとギリシャまで...



□岡永初美さん
マグカップの釉薬掛けの準備をしています。



初夏の不忍池



ペリカンが遊ぶ水上動物園側の静かな不忍池の風景



あじさいは今が見ごろです。木陰が多く散歩に最適...



マダガスカル島に150年前まで居たという世界最大の鳥の模型。(実物大)



間もなくハスの花が開きます。遠くに見えるのが工事中的「東京スカイツリー」です。

今月の作品

□加藤美代子さん 「入れ子鉢」
7つが順番に重なる揃いの器。マスキングをして油滴天目を掛け織部釉を刷毛で塗りました。見事な出来ばえです。



□佐々木志保子さん 「鈴鍋」

「ご飯を炊いても、土鍋として使っても良い立派な鈴鍋（鈴釜）です。見事な大作が出来上がりました。」



□藤居常秀さん 「湯呑」



本科に進んで初の作品。ざっくりと荒く削り白マットと鉄赤を掛け還元焼成しました。

□石川宏さん 「中鉢」

線は1ミリと2ミリのマスキングテープを使い見事に表現しました。設計家の面目躍如！



□石黒郁子さん 「花入れ」

実物より大きく見える作品。ビードロに白マットをして、指で落して焼きました。



□畑山菊恵さん 「鉢」



弁柄と呉須でモダンな柄を入れた丼鉢。赤土で作って還元焼成した作品です。

□中原玲子さん 「楕円鉢」

丸く作り楕円にゆがめ、化粧で刷毛目をしました。すてきな中間色ができました。



□奥田智美さん 「ご飯茶碗」

麦わら手のお茶碗。絵付けが初めてなのに大変よく描けましたね。



□岡部厚子さん 「そば猪口」



油滴天目のそば猪口の中に染付をしたアイデア作品。教室は色々なアイデアが活かせる実験場です。

□片柳拓子さん 「鉢」

細い線を気が遠くなる程、根気良く仕上げました。作品が輝いています。お疲れ様でした。



□奥村千恵子さん 「花入れ」

上が焼き、下が油滴天目の花入れ。形も斬新でグッド。



□中岡公子さん 「酒器」



ハングル文字を入れたユニークな酒器。黒化粧を鉄赤それに上絵の赤でアクセントを付けました。遊び心たっぷりの作品。

□対尾景子さん 「サラダ鉢」



全体に白マットを掛けた後、片側にトルコ青をやわらかく吹き、アクセントを付けました。

□鈴木幸子さん 「ご飯茶碗」



本科に入り初の作品です。織部釉の掛け分けが模様になり面白い作品になりました。

見た事・聞いた事・読んだ事

東京スカイツリーが 不忍池から見えます。

2008年7月から東武鉄道グループが総工費650億円をかけて作っている「東京スカイツリー」が、注目を浴びながらかなりの高さになり、不忍池からも、はっきり見えるようになってきました。



写真！不忍池弁天堂の右奥に見える東京スカイツリー。実際には6km先の墨田区で建設中。あと300メートル近く上に伸びます。

スカイツリーの底の部分が三角形で、上に伸びるに従って、円形になる設計で大きな地震にも耐えられるように、日本の五重塔の技術を取り入れて工事が進められています。

東京スカイツリーはテレビのデジタル放送の切り替えに合わせて建設中ですが、どうしてこんなに高い塔が必要なのかと思う人も多いと思いますが、東京は超高層ビルが増えたため「電波障害」の問題が深刻です。その解決のためにも、どうしてもこの高さが必要なのだそうです。

鉄骨の総重量は3万トンから4万トンですから、高さが約半分の東京タワーの10倍近くも使います。高さ350メートルと450メートルのところは展望台ができます。2年後の春の完成が楽しみです。（写真：6月25日撮影） 佐藤